

地区の備品を整備

宝くじ助成事業

財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業を活用して、平成24年度は福浦地区と倉谷地区にシステムキッチン、長机、エアコン、テントなどの備品が新しく整備されました。

この事業は、宝くじの社会貢献広報事業として地域コミュニティ活動の充実・強化を図ることを目的とし、活動備品の整備を支援しています。両地区では、お祭りや花見、子ども会や老人会などの交流会を行っています。今回の備品を活用し、今後ますますの地区活動の活性化が期待されます。



整備された福浦地区のキッチン



整備された倉谷地区のテント



あたたかい灯りでまちおこし

重盤岩眼鏡橋周辺に10月28日、約250本の竹あかりが設置されました。寒い冬の時期を温かみのある灯りで町を飾りたいと、商工会青年部などで作る実行委員会が4年前から取り組んでいるものです。

竹は毎年作り替えており、今年は約20人のメンバーが10月半ばから約2週間かけて作成しました。実行委員長の松永尚造さん(染竹)は「年々、作品の出来は上達しています。これからもこういった取り組みで町を盛り上げていきたいです」と話していました。

竹あかりは2月末までの、毎日午後5時半から午後9時半まで点灯しています。



グリーンゲイト広場を飾る竹あかり



各競技を存分に楽しんでいました

楽しく健康づくり

福祉スポーツ大会開催

10月28日(日)、第32回福祉スポーツ大会がB&G体育館で開催されました。この大会は参加者の融和と健康増進を目的に、老人クラブ連合会、母子会、家族会、身体障害者互助会、民生児童委員協議会が参加し、毎年開催されているものです。

当日は約250人が参加して、ペンギンリレーや背負い玉入れなど、さまざまな競技が行われました。特に、仮装行列が行われると会場には観客の歓声や笑い声が響いていました。大接戦の末、母子会チームが3連覇を果たしました。

安心で安全な町づくりに向けて



放射線測定器が町長へ手渡されました

ぼくのシンボルはこれだ

ぼくのわたしのロゴデザイン

グラフィックデザイナーの松永壮(たけし)さんを講師に迎え、10月28日(日)につなぎ美術館で、自分のロゴデザインを考えるワークショップが開催されました。

今回のワークショップには町内外から28人が参加。それぞれが自分の名前や家族、職業などからイメージしたロゴデザインを松永さんのアドバイスを受けながら考え描き、ペンで色付けをして仕上げました。子どもらしいかわいいデザインのロゴや、大人の参加者の中にはすぐにでも使えるような完成度の高いロゴが出来上がっていました。



ロゴ作りの説明をする松永さん

放射線測定器寄贈

10月27日(土)、松本医院医院長の松本央先生(なかつ) ((福)光栄会会長)から町へ放射線測定器が寄贈されました。これは同日開催された小規模特別養護老人ホーム「つなぎの里」の落成式に併せて贈られたものです。

当日は約80人が出席し、その中で松本先生は「これで安全で住みよい町になるよう期待します」と話していました。今後、大切に活用させていただきます。



今回、寄贈された放射線測定器



これからも地域の安全のために活動を続けます

安全活動の功績をたたえて

地域交通安全推進委員表彰

地域交通安全活動推進委員として活動している森下紀裕(のりひろ)さん(中尾)に、長年の活動の功績をたたえて熊本県警察本部から表彰状が贈られました。森下さんは平成2年から交通安全教育活動やシートベルト着用調査など地域安全のために活動を続けており、今年で23年目となります。

森下さんは「これかも地域安全のために活動を続けていきたいです。交通問題に関する意見や相談などがあれば、警察や交番だけでなく、私たちにも気軽に声をかけてほしいです」と話していました。